会報

156 号

新日本美術協会

第四十回記念新日美展を終えて

実行委員長 山下利隆

秋空のもと、十月十二日に搬出作業も終了し、穏やかに記念展の幕を下ろすことが出来ました。

北は北海道から南は山口県、また西から東から300点余りの作品が寄せられました。

新日美は美術界に在って、自己のまゝ、いじらない良い作品が多いなと、私は感じました。皆さまはどう感じましたでしょうか。

尚、事務局初め事業部会長そして総務部会の皆様、お陰様で四十回展を無事終了することができました。誠にお疲れ様でした。

引き続き京都巡回展が来年三月二十九日から四月二日まで開催されます。皆様のご支援宜しくお願いします。

四十回展総評

表彰式での講評を要約して一部を掲載

外部委嘱審査員 芳賀文治先生

特別審査員として桜井さん(元事務局長)から紹介されて十八年経ちました。作品のレベルは格段に向上した。作品は形、色によって思いが表現されていること、それが見る人に伝わればいいのではないか。

文科大臣賞の小宮山さんの作品は真面目に取り組みしっかり描き込んでいる。物の形、色、奥行き、石の苔などよく描かれている。**都知事賞**の児玉さんの作品では中国の漢詩「月光青苔を照らすこれ地上の霜か・・・」というのを思い出した。植物が白く輝く様に描かれているのでこの漢詩を連想した。ノラ猫の痩せ気味で警戒心を持ったしぐさなどよく表現されている。**都議長賞**の四方さんの作品は昔の旅の印象をメルヘン調に表現したと思われる。古い印象は不要な物が省かれ、工夫された画表面からはぬくもりが感じられる。**新日美大賞**の上原さんの作品は歩道のある林の奥行き、樹木の形などがしっかり描かれている。固有色にとらわれない彩色が良い。

外部委嘱審査員 中野 中先生

今回の展示会場は室毎に特色付けがされるなど工夫され新鮮に感じた。式典会場のプロジェクターも表彰と作品映像がリアルに伝わり大変いい。

絵は上手く描くのではなく何を表現したいのかが重要でそこにモチベーションを集中すべきだ。一例として北海道の神田日勝を紹介します。彼は北海道鹿追町の開拓農民で農作業の傍ら絵を描いた。独学の技法は泥臭く、明るくない画風で馬や牛、人物を描き三十二歳の若さで夭逝した。独立展に出品したこともあり、日勝美術館を訪れるリピーターが絶えない。ちなみに芸大で絵を学んだ兄の美術館はない。

新日美展目録に記載された**京都巡回展の日程表示に誤りがありました**

正しくは **平成二十九年三月二十九日～四月二日** です、訂正してお詫びいたします。旅程等の手配に間違いなき様お願いします。(事務局)

事務局
横浜市港南区港南台
1-39-5
鈴木忠義方
TEL045-832-0504

編集委員
小高峯夫
富岡ネム
大石 亨
四方公子
早田美智子

原稿常時募集
次号平成 29 年 2 月予定

写真でたどる 40 回記念展

① 作品搬入

② 作品の受付記録

③ 一次審査

⑧ 絵ハガキショップ

⑨ 表彰式・懇親会(精養軒)

④ 賞の選考

⑦ ギャラリートーク

⑥ 革工芸ワークショップ

⑤ 陳列飾り付け